

# スマホへの乗り換え、1年早いと10歳若い？

～ スマホ比率の世代別経年変化(2010～2019年)～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

## ポイント：

- ・2011年までのスマホ比率は全年代にわたって2割未満
- ・2016年、10代後半のスマホ比率が9割（若年層を中心にスマホが急速に普及）
- ・2019年、40代後半のスマホ比率が9割（ミドル層のスマホへの乗り換えが進行）

## ■ 調査結果

### スマホ比率の世代別経年変化

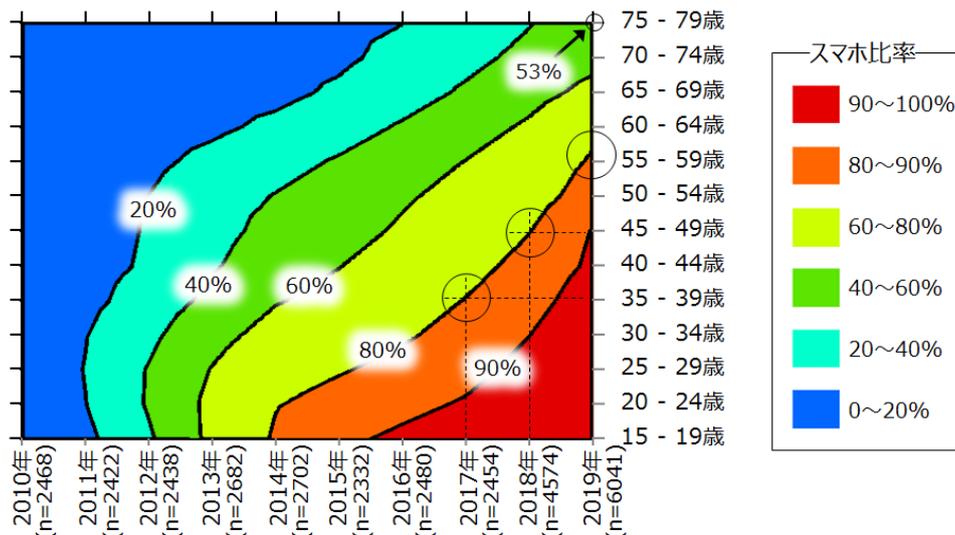
2008年にiPhone、2009年にAndroid OS搭載スマホが発売されて以来、約10年が経過した。世代ごとにスマホはどの様に普及してきたのだろうか。

図1は、“縦軸”と“横軸”にそれぞれ”5歳刻みの年齢”と”調査年”をとり、スマホ比率の等高線（値の等しい点を結んだ線）を描いたものである。青色で示された領域はスマホ比率が20%未満、赤色の領域はスマホ比率が90%を超えていることを意味している。

2011年の調査時点では全年代でスマホ比率は2割に満たなかったが、若年層を中心にスマホ化が急速に進み、2016年には10代後半のスマホ比率が9割を超えた。2019年には40代後半のスマホ比率9割を超え、ミドル層でのスマホへの乗り換えが進んでいることが伺える。

スマホ比率80%の線に着目すると、2017～2019年の3年間で30代後半(35-39歳)⇒40代後半(45-49歳)⇒50代後半(55-59歳)と推移している。スマホ比率がスマホ利活用の程度を反映しているとすれば、少し乱暴な表現ではあるがミドル層におけるスマホ乗り換え時期の1年の差は、スマホ利活用に関して10歳の年齢差に相当するとも言えるかもしれない。

シニア層のスマホ比率の伸びはこれよりも緩やかではあるが、70代後半のスマホ比率は53%と既に半数を超えており、今後も伸びが期待できる。



注1：スマホ・ケータイ所有者が回答  
 注2：「わからない」を除く  
 注3：「スマホ」は「Android」「iPhone」「Windows MobileなどAndroidやiPhone以外のスマホ」「シニア向けスマホ」「タブレット(AQUOS PAD, ARROWS Tab, iPadなどで、通信回線契約をしているものに限る)」の合計  
 注4：「スマホ」に含まれないものは「従来のケータイ(PHSまたはいわゆるガラケー)」「シニア向け/子ども向けの従来のケータイ」「モバイルルーター、データ通信USB」「その他」  
 出所：2010年-2019年一般向けモバイル動向調査

図1 スマホ比率の経年変化

## ■調査概要

調査名：経年概況調査「一般向けモバイル動向調査」

調査対象：全国・15～79歳男女、調査方法：Web

標本抽出法：QUOTA SAMPLING、性別・年齢（5歳刻み）・居住地域区分のセグメントで日本の人口分布に比例して割付。

調査時期（回答数）：2010年2月（2807）、2011年2月（2808）、2012年1月（2808）、2013年2月（3015）、2014年1月（3022）、2015年1月（2706）、2016年1月（3000）、2017年1月（3000）、2018年1月（6000）、2019年1月（6926）

## ■問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com 03-5156-1087